令和 7 年度　斜面樹林化技術協会現地見学会・技術研修会の開催報告

斜面樹林化技術協会

令和 7 年 11 月 14 日（金）に，斜面樹林化技術協会の現地見学会・技術研修会が，東興ジオテック株式会社内 RS センターおよび大月樹林化施工地（栃木県足利市）で開催され，当日は協会員 9 名が参加しました。

まず技術研修会がおこなわれ，1）斜面樹林化工法を支える RS センターの概要と国内産在来種子の供給体制について，2)「のり面緑化工の手引き（改訂版)」の改訂のポイントについて，3）改良されたノンラスグリーン仕様についてご説明しました。その後，RS センターへ移動し，種子自動計量袋詰装置によるレミディシーズ生産のデモンストレーションと種子専用貯蔵施設を見学いただき，国内産在来種子を供給する施設と技術について理解を深めていただきました。

午後からは，足利市へ移動し，周辺の里山風景と調和する法面形成を目標に，現地採取種子を RS センターで貯蔵，品質検査し，国内産在来種子（導入植物）と混播した大月樹林化の施工 16 年 4 ヵ月後の植生状況を確認しました。施工 7 ヵ月～約 10 年後までは導入植物のアカメガシワ，ヌルデが優占し，その林床に現地採取種子から生育したコナラ，ムクノキなどが混生する植生となりましたが，16 年 4 ヵ月後には導入種のネズミモチが被度 3～4，現地採取種子のシラカシが被度 1～2 など，常緑広葉樹が主体の群落に移り変わる様子を間近で確認いただきました。

今回の事例では，採種計画の策定が遅れ，限られた数量の現地採取種子の確保に留まりましたが，適切な準備工が計画されれば，RS センターの中長期貯蔵や品質管理技術を活用して，より地域生態系に配慮した現地採取種子が主体の群落形成が可能です。

技術研修会

参加者一同

現場説明を受ける参加者